

校内研修計画

甲州市立奥野田小学校

1 学校課題

本校の児童は、明るく、いろいろなものごとにもじめに取り組むことができる。伝統の朝マラソンにも意欲的に取り組み、心身をたくましく鍛えている。共感的な話し方や聞き方のできる児童の育成を目指して、言語活動の充実を図ってきたことにより、自分の考えをもち、交流の場面では発表を楽しむことができる児童も増えてきている。Q-Uの分析からも児童の学習意欲は、高いことがわかる。

平成26～27年度のNRTの結果分析（研究1年次の結果分析）から、3つの観点の中で、「数学的な考え方」の全国比が他に比べ低いものの、どの学年も全領域・全観点において確実に結果を残していることが伺える。昨年度は、「数量関係」領域に注目し、系統性を意識した授業改善に取り組んできた。その結果、単元テストでは、全学年で全国平均を上回る結果を残すことができた。そこで、本年度も引き続き算数科を中心とした研究に取り組み、今年度のNRTの結果分析（研究2年次の結果分析）を全学年で行い、各学年の課題（領域・観点）を洗い出し、児童がさらに「わかる」「できる」を意識しながら「確かな学力」を育むことができるようにしていきたい。

また、本年度は「数量関係」領域にとらわれず、その学年の課題を改めて洗い出すことで、さらなる「確かな学力」を育むことができると思われる。

これらの実態分析から、本校の喫緊の学校課題を「算数科における授業改善」と捉えた。

2 研究主題

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

—「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりを通して（3年次）—

3 主題設定の理由

本校では、「自ら学ぶ子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、学校経営重点の一つとして児童の学習意欲を高め、「確かな学力」の育成を目指した授業づくりに取り組んでいる。「生きる力」の知的側面である「確かな学力」は、「基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」と定義されている。今、求められる確かな学力を捉える上では、「何を教えるか」という知識の質や量の改善、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習「アクティブ・ラーニング」や、そのための指導の方法等を充実させる必要性と学びの成果としての「どのような力が身に付いたのか」という視点が重要であることが指摘されている。これらの時代や社会の要請を踏まえ、本校の学校教育目標の具現化を目指していくために、研究主題を『「確かな学力」を育む学習指導に関する研究』と設定した。

さらに、本校の喫緊の課題として捉えられる算数科の授業改善にあたっては、昨年の研究成果である授業における具体的な手立て（教材分析と提示の仕方、学習の見通しと授業構造、適切な板書とノート指導、教材教具の共有化等）を生かしながら、「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりに取り組んでいく。また、各種調査の結果分析（NRT、全国学力学習状況調査、県学力把握調査、Q-U等）を丁寧に行い、どの内容の理解につまずきがあるのかを把握し、児童のつまずきに基づいた、系統性を生かした授業改善に取り組むことによって、児童に「わかる」「できる」を保障し、「確かな学力」を育成していきたい。

4 研究の内容と方法

- (1) 授業研究（研究授業、一人一実践授業、確かな学力育成プロジェクトへの取組、甲州市ティーチャーズノートの活用）
- (2) テーマに関わる理論研究
- (3) 「Q-U」の実施と分析・活用の充実

校内研修計画

研究テーマ		教科・領域	担当者	日程 (授業の時期)			T/C要請
「確かな学力」を育む学習指導に関する研究―「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりを通して（3年次）	今年度の研究の方向性について		研究主任	4	1 3	①	
	今年度の研究の概要について ブロック組織の決定	算数	研究主任		2 7	②	
	レディネステストの分析	算数	研究主任	5	1 1	③	
	平成 28 年度「NRT」検査結果分析 「確かな学力」育成プロジェクト「あいさつ」「学習規律」に関する取組について	算数 集団づくり	研究主任	5	2 3	④	
	第 1 回 Q-U の分析 第 1 回 Q-U 分析結果の共有化	集団づくり	学級担任 教務主任	6	8	⑤	
	ブロック別研究会（「NRT」結果分析に基づく、 領域・系統性について） 一人一実践授業の共有化	算数	研究主任 ブロック長 授業者		2 2	⑥	
	教育課程説明会の還流報告 特別支援教育の学習会	各教科 特別支援	各教科主任 コーディネーター	8	2 4	⑦	
	ブロック別研究会（Q-U分析結果に基づく取 組の振り返りと 2 学期の取組の確認）	集団づくり	ブロック長	9	7	⑧	
	ブロック別研究会（領域・系統性を意識した授 業づくりについて）	算数	ブロック長	10	5	⑨	
	研究授業	算数	授業者 ブロック長 研究主任		1 2	⑩	○
	ブロック別研究会（領域・系統性を意識した授 業づくりについて）	算数	ブロック長		2 6	⑪	
	第 2 回 Q-U の分析・分析結果の共有化	集団づくり	研究主任	11	2	⑫	
	一人一実践授業の共有化	算数	授業者		9	⑬	
	一人一実践授業の共有化	算数	授業者		2 8	⑭	
	研究の成果と課題アンケートについて ブロック研究のまとめ	算数	研究主任 ブロック長	2	1	⑮	
	研究のまとめ 研究紀要作成について	算数	研究主任		2 2	⑯	
研究紀要の作成	算数	研究主任	2 7		⑰		
研究紀要製本	算数	研究主任	3	8	⑱		

※様々な調査結果の分析後、課題のある単元を洗い出すため、一人一実践の日程が不確定だが、定期的実践し、校内研究の中で共有化を図る予定。